

なぜ製造現場では、知識が活かされないのか
— 現場を変える製造業のためのAIナレッジ継承改革 —

パナソニックデジタル株式会社



アンケートにご回答いただいた方へ、 本日の発表資料をお送りします

アンケート

各設問に回答後、画面下の「回答」をクリックしてください。

-

必須 1.会社名

〃

必須 2.お名前

〃

必須 3.セミナー資料を希望されますか

希望する

希望しない

セミナー終了後、本日のセミナーの「アンケート」が表示されます。
ご回答いただいた方へ、本日の発表資料をお送りします。



荒井 貴志

Takashi Arai

パナソニック デジタル株式会社
営業推進統括部 東日本営業推進部 第一営業所

- ◆ 民間企業様向けセールスエキスパート
- ◆ 大切にしていること : 今日の最善は、明日の最善ではない
- ◆ 趣味 : 登山、サイクリング、StandUpPaddle

**製造現場に、あらためて
“探せる知識”が求められる理由**



製造業を取り巻く社会的背景

— なぜ今、製造現場の「知識」が危機にあるのか —

背景①

深刻化する人手不足・高齢化

- 製造業の就業者の割合は、低下傾向で推移
2023年：1,055万人まで減少
- 特に若年層（34歳以下）の減少と高齢化が顕著
- 製造業の人手不足は、全産業平均よりも深刻
- 👉 「人がいない」だけでなく、「知識を持つ人がなくなる」

背景②

技術・ノウハウ継承が追いつかない現実

- 製造業の約8割が将来の技能継承に不安を感じている
- 「技能継承がうまくいっている」と答えた企業は半数以下
- 👉 人の退職 = ノウハウの消失リスク

出典：経済産業省「ものづくり白書2024年版」
<https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/mono/2024/>

「製造業の最大リスクは、人ではなく“人が持っていた知識が失われること”です」

製造DXは進んだ。だが「現場の知識」は活かされていない

— データは増えたが、現場の“使える知識”にはなっていない —

現状①

DX・デジタル化は進んでいる

- 製造業DXの主目的：
 - * 業務効率化・生産性向上
 - * 人手不足への対応
- 成果として多いのは：
 - * 情報共有の促進
 - * コスト削減
- 👉 「データを溜める」フェーズは進展

出典：経済産業省「製造基盤技術実態等調査（2024）」
https://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2024FY/000066.pdf

現状②

しかし現場では「探せない・使えない」

- DXが「十分な成果を出している」企業は約10%
多くの企業が
 - * データが分断されている
 - * ノウハウが再利用できないと実感
- 👉 “データはあるが、知識になっていない”

出典：PwC Japan「日本企業のDX推進実態調査2024」
<https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/dx-survey2024.html>

「製造DXの次の課題は、“検索できるデータ”ではなく、“使われる知識”です」

なぜ今、製造現場に「企業内検索エンジン」が必要なのか

— 製造業の競争力は「知識を探せるかどうか」で決まる時代へ —

背景①

製造現場の情報は「非構造・分散・大量」

- 不具合報告書、改善報告書、研究資料、設備資料
- Word / Excel / PDF / 画像 / メール
- 部署・工場・個人に分散
- 👉 従来のフォルダ管理・全文検索では限界

出典：経済産業省「ものづくり白書2024」
<https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/mono/2024/>

背景②

検索できないことがもたらす経営リスク

- 技術伝承が進まない
- 同じ不具合の再発
- 開発・改善スピード低下
- 人に依存する現場

出典：JMA「次なる成長に向けた日本製造業の課題」
https://www.jma.or.jp/img/pdf-report/keieikadai_2024_report_issues_manufacturing.pdf

「これからの製造現場には、“人の代わりに知識を探してくれる仕組み”が必要です」

現場ではどのような問題がおきているのか！？



製造業のお客様でよくある・よく聞く課題 1/2

● 人・組織に起因する課題



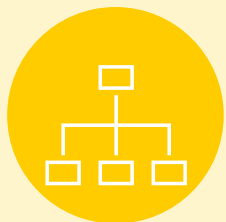
技術・ノウハウの属人化

- ✓ 暗黙知が多く、文書化されていない
- ✓ ベテラン社員・熟練技能者にノウハウが集中
- ✓ 「あの人に聞かないと分からない」状態



人材不足・世代交代

- ✓ 技能伝承が追いつかない
- ✓ 若手が育つ前にベテランが退職
- ✓ 教育コスト・教育工数が増大



部門・拠点間の分断 (サイロ化)

- ✓ 工場ごと・部署ごとにやり方が違う
- ✓ 横展開されない改善・不具合対策
- ✓ 研究所と工場、設計と製造の断絶

【背景】

- 長年の現場改善・試行錯誤の積み重ね
- 忙しくて整理・共有する時間がない

【現場の声】

- 「OJTが属人的」
- 「過去のトラブル事例を探せない」

製造業のお客様でよくある・よく聞く課題 2/2

● 業務プロセス・スピードの課題



問題解決に時間がかかる

- ✓ トラブル発生時、過去事例を探す時間がかかる
- ✓ 類似不具合が何度も再発
- ✓ 「過去にやったはずだが資料が見つからない」



業務が非効率・ムダが多い

- ✓ 同じ資料・同じ調査を何度も作成
- ✓ 検索できないため「最初から作る」
- ✓ 手戻りが多い

● DX・IT活用に関する課題



DXを進めたいが現場に浸透しない

- ✓ ITツールが「入れただけ」になりがち
- ✓ 現場にとって使いにくい
- ✓ 情シス主導で現場目線が不足



データはあるが活用できていない

- ✓ 図面、報告書、ログ、帳票は大量にある
- ✓ どこに何があるか分からない
- ✓ 「データは資産」と言いつつ眠っている

● 工場特有のデータ・ナレッジ課題



トラブル・不具合対応
ナレッジが活かされない

- ✓ 過去の不具合報告書が埋もれている
- ✓ 類似事例を検索できない
- ✓ 担当者が違うとゼロから調査



改善・カイゼン事例が
横展開されない

- ✓ 工場Aでは成功、工場Bでは知られていない
- ✓ 報告書はあるが共有・検索されない
- ✓ 形式がバラバラ



設備・保全ノウハウの
分断

- ✓ 設備ごとの履歴が分散
- ✓ ベテラン保全員の経験に依存
- ✓ マニュアルが古い／更新されない

● 研究所・技術部門特有の課題



技術資料・実験データが 散在

- ✓ 実験報告書、解析結果、論文、特許資料
- ✓ フォーマットが統一されていない
- ✓ ファイル数が膨大



過去研究の再発明 (車輪の再発明)

- ✓ 「昔やっていた研究」を知らずに再実施
- ✓ 類似テーマの存在に気づけない
- ✓ ナレッジの再利用ができない



異分野・異部署の知見 に辿り着けない

- ✓ 用語が違うため検索できない
- ✓ 部署の壁で情報が見えない
- ✓ 結果としてイノベーションが生まれにくい

なぜこのような問題が起きるのか！



従来型の情報管理・検索の前提が製造現場と合っていない



従来型の前提

- ✓ ファイル名・フォルダ構成を知っている
- ✓ 検索キーワードを正確に入力できる
- ✓ 文書がきれいに整理・標準化されている



現場の実態

- ✓ 欲しい情報は「うろ覚え」：
「○年前のあの不具合」、「○○装置でトラブルった時の資料」
- ✓ 用語が人・部署・時代で違う、文書の形式もバラバラ (PDF, Excel, Word)



フォルダ管理の限界

- ✓ 深い階層に埋もれる
- ✓ 命名ルールが守られない
- ✓ 「どこにあるか」を知っている人しか辿り着けない
(関連資料も紐づいていない)
- 👉 結果人依存・属人化が解消されない



一般的な全文検索の限界

- ✓ キーワードが一致しないとヒットしない (専門用語など)
- ✓ 略語・言い換え・表記ゆれに弱い (読まない判断できない)
- ✓ ノイズが多く、現場では「使えない」
- 👉 現場の本音「検索しても結局、人に聞いた方が早い」



情シス主導施策の限界

- ✓ 登録ルール・メタデータが重い
- ✓ 業務が忙しく、整理は後回し
- ✓ 「使うための仕組み」ではなく「管理するための仕組み」になりがち
- 👉 結果
- ✓ 形骸化したナレッジ基盤
- ✓ 情シスが困る状態

製造現場で「使われる」検索・ナレッジ活用とは何か

●現場で本当に求められている検索の姿



現場が求めているのは…

- ✓ 正確さより「それっぽい答えにすぐ辿り着く」
- ✓ 完璧な文書より「判断材料」
- ✓ 操作説明より「考えなくても使える」

●「使われる」検索・ナレッジ活用の条件



あいまいでも探せる

- ✓ 用語が違っててもヒット
- ✓ 「こんな感じ」で検索できる
- ✓ 専門用語を知らなくても使える



業務文脈でつながる

- ✓ 設備名 × 不具合
× 対応結果
- ✓ 研究テーマ × 実験結果
× 関連技術
- ✓ 文書単体ではなく
“知識のつながり”



探す時間が短い

- ✓ 数分以内に「使えそう」な情報が見える
- ✓ 全部読む必要がない
- ✓ 要点が分かる



使う人に負担をかけない

- ✓ 登録・整理を意識させない
- ✓ いつもの業務の延長で使える
- ✓ 「検索するだけ」で価値が出る

ナレッジ共有に関する本質的な課題



現在の状況

- ✓ 「情報はある」
- ✓ 「ツールもある」



本質的な課題

- ✓ “使われる形”で整理・検索できていない
- ✓ 人の頭の中とデータがつながっていない
- ✓ 業務の流れの中で自然に使えない



情シス主導施策の限界 (現場視点)

- ✓ ルールはあるが守られない
- ✓ 登録・整理が現場負担になる
- ✓ 「検索しづらいから使わない」



- 「データがない」ではなく「活かせていない」
- 工場・研究所ではファイル・文書・ナレッジが最大の資産
- 課題は検索性・横断性・現場での使われ方

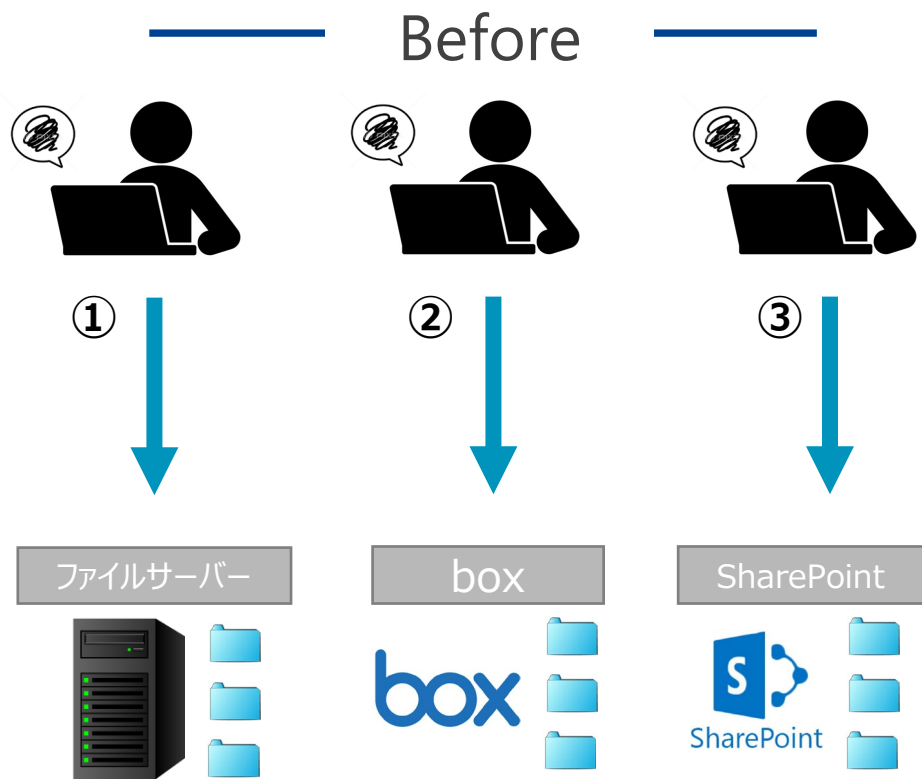
ゴールは「ナレッジが人を助ける状態」

- 新人でもベテランの知見に辿り着ける
- 拠点・部署を超えて知見が使われる
- 「聞かなくても分かる」「調べれば分かる」

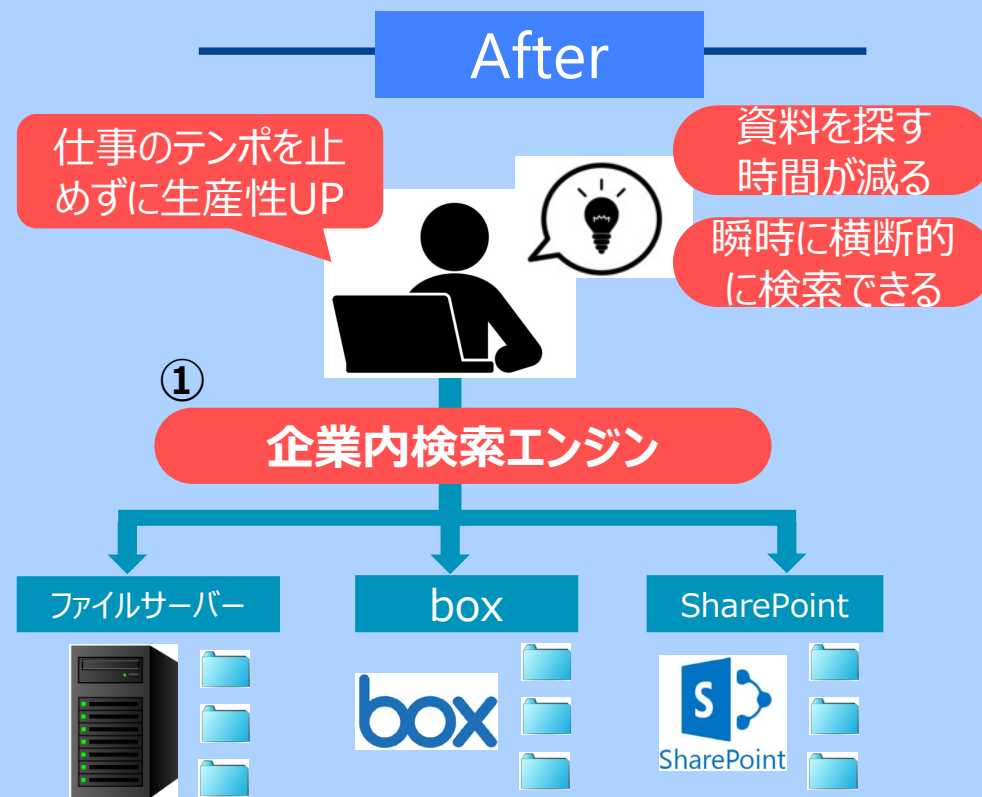
👉 **これが製造現場DXの本質**

それを可能とするひとつの解が「企業内検索エンジン」

企業内検索エンジンを利用することによって



- ① ファイルサーバフォルダを一つずつ探す。またファイルの一つずつ開き確認
- ② ①と同様に違う場所を探す
- ③ ②の繰り返し



- ✓ 企業内検索エンジンで一度の検索のみ
- ✓ 思いがけない良い資料が見つかることも
- ✓ ファイルオープンせずサムネイルプレビュー機能により中身を確認

現場で求められている検索を実現

●「使われる」検索・ナレッジ活用の条件



あいまいでも探せる

- ✓ 用語が違っててもヒット
- ✓ 「こんな感じ」で検索できる
- ✓ 専門用語を知らなくても使える



業務文脈でつながる

- ✓ 設備名 × 不具合
- × 対応結果
- ✓ 研究テーマ × 実験結果
- × 関連技術
- ✓ 文書単体ではなく
“知識のつながり”



探す時間が短い

- ✓ 数分以内に「使えそう」な情報が見える
- ✓ 全部読む必要がない
- ✓ 要点が分かる



使う人に負担をかけない

- ✓ 登録・整理を意識させない
- ✓ いつもの業務の延長で使える
- ✓ 「検索するだけ」で価値が出る

* P.17「活用条件」

検索キーワード一致ではなく意味・文脈で検索

- ◆ 表記ゆれ・言い換え・略語に強い
- ◆ 「設備停止」「ライン停止」なども関連付け
- 👉 現場の“うろ覚え検索”に強い

文書を“知識”として横断的につなぐ（工場間活用）

- ◆ 不具合報告書 × 対策書 × マニュアル × 設計資料
- ◆ 研究報告 × 過去実験 × 類似テーマ
- 👉 点在していたファイルが「知識ネットワーク」になる

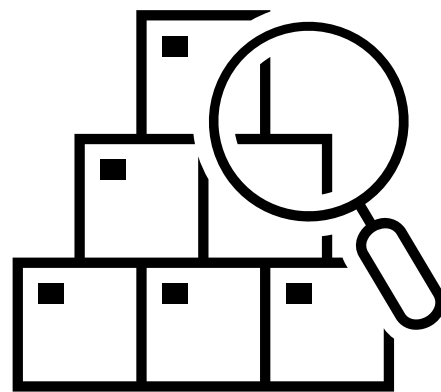
ナレッジを活用できない企業は、**競争力**を失う

日常で使うGoogle検索のように、いつでも、だれでも、簡単に使いこなせる検索ツールを導入することがナレッジ活用の第一歩

社員一人ひとりが持つ
知識やノウハウを
組織全体で共有



日々の業務改善や
施策に活かす



蓄積されたナレッジ（自社の財産）



➤ 製造現場では、人とともに「知識」が失われつつある



➤ 人手不足・高齢化による、技術・ノウハウ消失



➤ リスクDXは進んだが、知識は“使われる形”になっていない



➤ データはあるが、探せない・つながらない・活かせない



➤ 本質的な課題は「検索とナレッジ活用の前提」にある



➤ 従来型の管理・検索が、現場の実態と合っていない

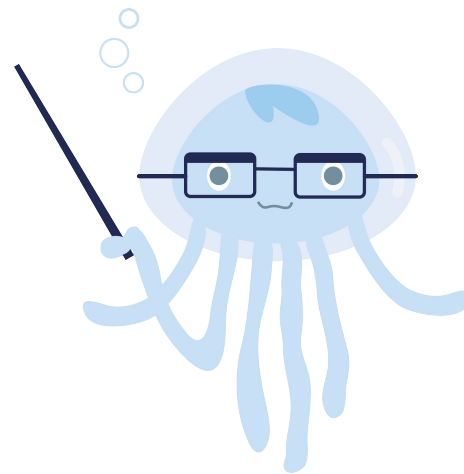
ゴールは「ナレッジが人を助ける状態」

➔ それを実現するひとつの解が、**企業内検索エンジン「NeuonES」**

企業内検索エンジン「**NeuronES**」の詳細は

次のメーカーセッションでご紹介させていただきます。

現場を変える製造業のための AIナレッジ継承改革



Neuron ESイメージキャラクター
ワトソンくん

ミッション:

企業活動の継続性と生産性の劇的な向上に貢献する

社名 ブレインズテクノロジー株式会社

所在地 東京都港区高輪3-23-17

設立 2008年8月8日

資本金 618,526千円

従業員数 73名(2025年7月末)

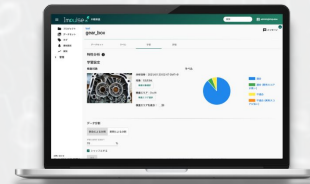
上場市場 東証グロース

事業内容 エンタープライズAIソフトウェア事業
- データ検索製品の開発・提供
- データ分析製品の開発・提供



企業内全文検索エンジン

Neuron
Enterprise Search



異常検知ソリューション

Impulse



氏名 江川 優一(えがわ ゆういち)

役職 ブレインズテクノロジー株式会社
製品開発部 NeuronES事業開発室
パートナーデベロップメントチーム

経歴 サーバホスティング 設計/営業
(民間企業担当)
・セキュリティソフト販売 兼
N/W、ハード、他社製品などのSI提案
(公共、文教、医療ヘルスケア)

趣味 サッカー/フットサル

ナレッジ継承の課題

直面する「2つの危機」

外部：労働人口の減少

若手採用の難化により、これまでのような「長期OJT」が不可能に。短期間で高い専門性を習得させる環境が不可欠です。

内部：知のブラックボックス化

ベテランの退職に伴い、マニュアル化されていない「判断のコツ」や「過去の経緯」が永久に失われるリスクがあります。

継承を阻む「情報のサイロ化」



ファイルサーバ



SPO/boxなど



Wiki/ポータル



グループウェア

「どこにあるか知っているベテラン」が去ると、これらの情報は二度と発掘できなくなります。

情報のサイロ化: 3つの主要因



組織の壁

部署ごとに独自の業務フローが存在し、他部署への情報共有が「コスト」と見なされる心理的・物理的隔たり。



ツールのバラバラ

ファイルサーバ、SPO、boxなど。利便性ゆえにデータが分散し、検索できない「島」が発生。

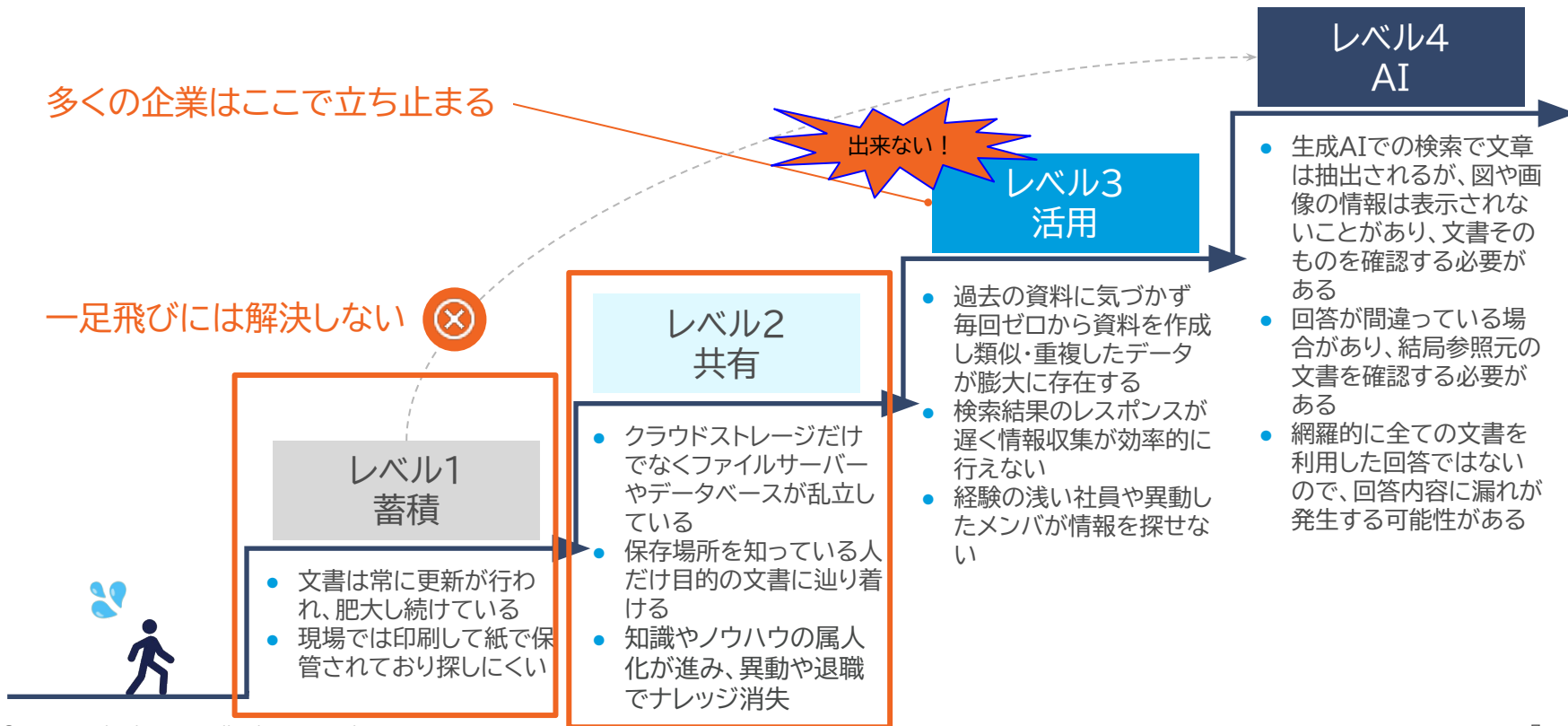


ルールの不在

命名規則や保存場所が属人化。後から他人が探してもヒットせず、情報は「データの墓場」へと消えていく。

情報活用の課題

- 検索性における課題は「社内のナレッジを蓄積し、共有して、活用する」業務の中で抽出します。



オンプレファイルサーバの検索性課題

- **ファイル名検索のみ**
 - ファイル名検索のみのため、ファイルを開く/閉じるを繰り返し確認する必要があるため時間がかかる
- **検索が遅い**
 - ファイル名検索のみだが検索が終わるのに5~10分以上かかる。
- **複数条件指定ができない**
 - 複数条件や絞り込み検索が行えないので欲しい情報に辿りつきにくい。

SharePointの検索性課題

- **検索結果が多く欲しい情報に辿り着けない**
 - 必要以上に候補が表示されてしまった時に標準の機能だと高度な絞り込みが難しい
- **あいまい検索の精度が低い**
 - 標準の検索機能は、日本語の表記揺れに対応をしておらず、新語や専門用語での検索精度が低い
- **検索結果表示の課題**
 - 検索結果はファイル単位で表示されるだけで、該当ページや該当箇所までは分からないため文書を開いてスクロールで探す必要がある
 - プレビューが不十分で、画像や図表が多い資料では、内容を一目で判断できない

Boxの検索性課題

- **全文検索1万バイトの壁**
 - Boxは全文検索に対応をしておらず、1万バイト(日本語約5,000文字)までしか検索の対象にならない。
論文等の文章量が多いファイルでは検索漏れが発生してしまう
- **通常検索が「OR検索」**
 - キーワードを増やすとむしろ検索結果が増えてしまうので、目的の文書に辿り着きにくい。
- **検索結果表示の課題**
 - 検索結果はファイル単位で表示されるだけで、該当ページや該当箇所までは分からない。
プレビューでスクロールして探す必要がある

企業内検索システム「Neuron ES」

クラウドストレージにおける検索課題を解決する手段として、企業内のさまざまな文書やデータを素早く横断的に全文検索できる「エンタープライズサーチ」をご提案します。



横断検索

多様なデータソースへの高い接続性

単一インターフェース

1つのインターフェースでデータソース全体に存在する関連性の高い情報を発見

統合インデックス

構造化コンテンツと非構造化コンテンツを単一のインデックスに統合

セキュリティ

自分の権限を持つ文書のみが検索結果に表示

行動データ

タグ付けや文書の絞り込み、社員の検索状況把握

AI

複数ファイルから情報を収集し、要約・比較・評価を実施
会話型AIチャットで更に深掘りした回答を提供

多くのお客様のシステム環境に対応すべく、検索対象を広げています

レポジトリ	接続先
<p>Notes</p>	<ul style="list-style-type: none"> Notes/Domino 6.5以降
<p>SharePoint SharePoint Online</p>	<ul style="list-style-type: none"> SharePoint 2013, 2016, 2019 https://xxxx.sharepoint.com
<p>box</p>	<ul style="list-style-type: none"> https://Box.com
<p>Dropbox</p>	<ul style="list-style-type: none"> https://www.dropbox.com/xxxx/
<p>Google Drive</p>	<ul style="list-style-type: none"> https://drive.google.com/xxxx/

レポジトリ	接続先
ファイルサーバ	<ul style="list-style-type: none"> SMB1, SMB2, SMB3(SMB暗号化)対応 ファイルサーバ(Windowsファイルサーバ, Samba, NetApp, NAS等)
ファイルシステム	<ul style="list-style-type: none"> Windowsファイルシステム(NTFS) Linux
Webサーバ	<ul style="list-style-type: none"> HTTP/HTTPS
データベース*	<ul style="list-style-type: none"> Oracle SQL Server
<p>desknet's NEO</p>	<ul style="list-style-type: none"> パッケージ版の「文書管理」
Garoon	<ul style="list-style-type: none"> パッケージ版の「ファイル管理」「掲示板」

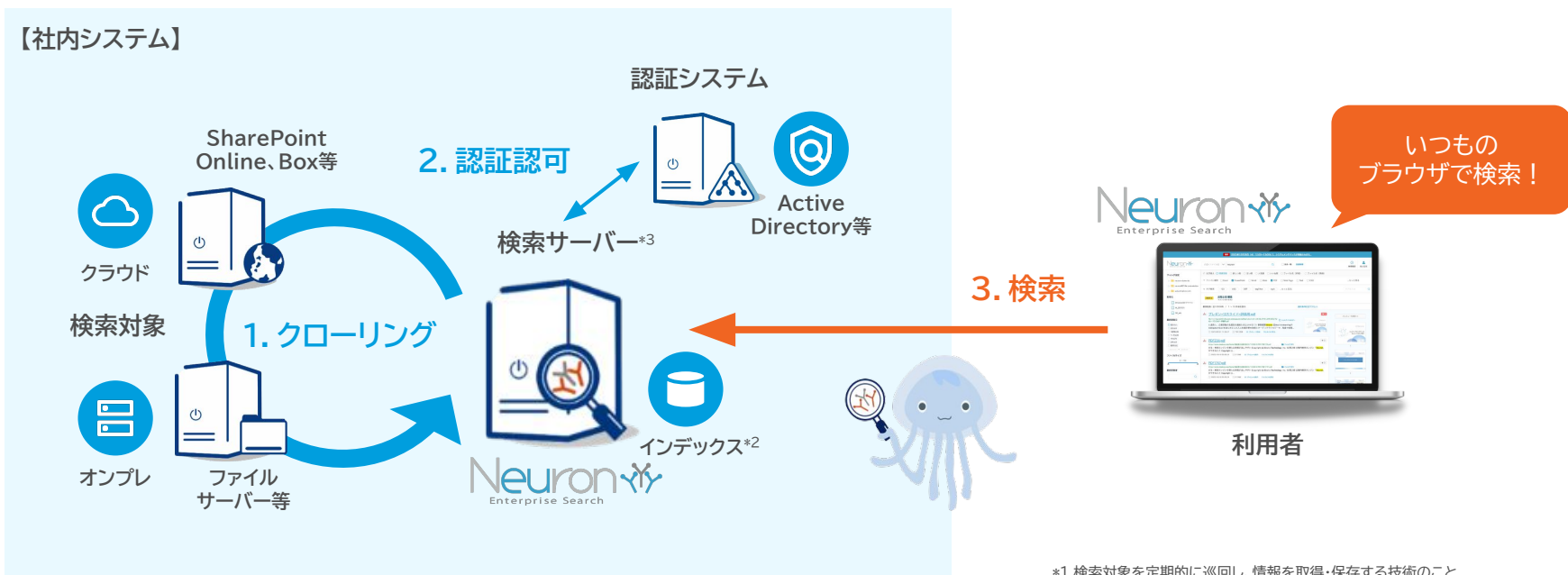
* データベースは一例です。他のデータベースをご希望の場合はお問い合わせください。
* 上記に掲載されていないレポジトリをご希望の場合はお問い合わせください。

分類	ファイル形式
テキストファイル	<ul style="list-style-type: none"> txt, text, csv等
MS Office文書	<ul style="list-style-type: none"> 【XP/2003形式】doc, xls, ppt 【2007以降 OOXML形式】docx, xlsx, pptx, ppsx, docm, xlsx, pptm, ppsm
Visio	<ul style="list-style-type: none"> 【2003/2007/2010形式】vsd*1 【2013以降 OOXML形式】vsdx
PDF	<ul style="list-style-type: none"> PDF文書
HTML	<ul style="list-style-type: none"> htm, html, xhtml, xhtm等 (HTML Version 1.0, 1.1, 2.0, Atom, RSS 2.0等)
リッチドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> rtf形式のリッチテキスト
Open Document	<ul style="list-style-type: none"> odt, ods, odp, odg, ott, ots, otp, otg, sxw, sxc, sxi, sxd, stw, stc, sti, std形式のOpen Document
Google ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> gsheet, gslides, gdocなど

分類	ファイル形式
DocuWorks	<ul style="list-style-type: none"> xdw, xbd形式のDocuWorksドキュメント*2
圧縮ファイル	<ul style="list-style-type: none"> zip, bz2, tar, z, gz, tgz, 7zで圧縮された文書*3
マルチメディア (オーディオ、ビデオ、画像)	<ul style="list-style-type: none"> mp3, jpeg, mpeg等*4
メールファイル	<ul style="list-style-type: none"> msgファイル
CADファイル	<ul style="list-style-type: none"> dwg形式のAutoCADファイル
一太郎ファイル	<ul style="list-style-type: none"> 一太郎 ver5以降

*1 2002以前のバージョンで作成されたファイルやテンプレートを利用しているファイルは解析できない場合があります
 *2 別途Fujixerox社のDocuWorks Viewer lightをインストールする必要があります
 *3 圧縮されたファイル内の文書のタイトルがインデクシングされます。標準では圧縮文書のコンテンツはインデクシングされません
 *4 ファイル名やサイズ、EXIF等のメタデータ(デフォルトでは検索対象外)のみ検索対象となります

既存システムに変更を加えることなく検索対象をクローリング*1
利用者はいつものブラウザで検索するだけ



*1 検索対象を定期的に巡回し、情報を取得・保存する技術のこと
*2 クローリングした情報が検索エンジンのデータベースに登録された状態のこと
*3 検索サーバーは別途ご準備いただく必要があります

デモンストレーション



情報検索時間の削減！

資料作成や業務知識の習得、組織内問い合わせ件数低減による間接工数削減にもつながる！

導入事例ご紹介

導入先一覧(代表例)

製造業

【公共】
 中央省庁 : 総務省、防衛省、厚生労働省、国土交通省
 自治体 : 仙台市、金沢市、横浜市、埼玉県、名古屋市、大阪府
 その他 : 理化学研究所、日本下水道事業団、科学技術振興機構、海洋研究開発機構、警視庁、愛知県警察、千葉市教育委員会等

情報通信業

建設業

自治体

その他

共有



導入の背景

全社的な働き方改革への取り組みを背景とした社内へのアンケート実施

決め手

費用対効果が高く、また直感的な検索画面で定着化が見込まれたため

導入効果

従業員一人あたり10時間/月以上もの情報収集のムダ時間を削減

Neuron ESにおいては評価期間含めてほぼ操作説明が不要で、**従業員も直感的に使ってくれたため、導入後すぐに利用が定着する**と思えました。

いつでも**気軽に好きなキーワードで社内ナレッジを検索できる**ので、新しい働き方との相性も良いと思います。



導入の背景

スタッフ業務の生産性向上(業務効率30%アップ)実現のため

決め手

検索スピードの速さとシンプルなUI

導入効果

1000時間/月以上の削減効果

「Neuron ES」の検索スピードは群を抜いています。ユーザーに実際に製品を触ってもらうと一言目には必ず「早い！」と驚きの声が出るほど。

目的の文書に素早くたどり着けるようになっただけでなく、**思わぬ文書が見つかる**ようになりました。社内ですぐ**すごい資料が見つかった、ちょっと見て!**という声をよく聞きます。

1. 検索時間を短縮可能

例: 過去トラ検索



ライン Z-12で異音が発生しています。過去の不具合報告に類似する報告はありますか？

2. 検索結果から必要な情報を表形式で出力可能

例: 選択した日報から必要な情報を一覧化



選択した各日報の作業員名と実働時間を表形式でまとめてください。

3. 複数のファイルから欲しい情報だけ回答可能

例: 複数マニュアルからの手順統合



現場安全確認、足場解体、運送の作業手順を教えてください。

4. 社内文書について生成AIが回答可能

例: 社内規定の確認

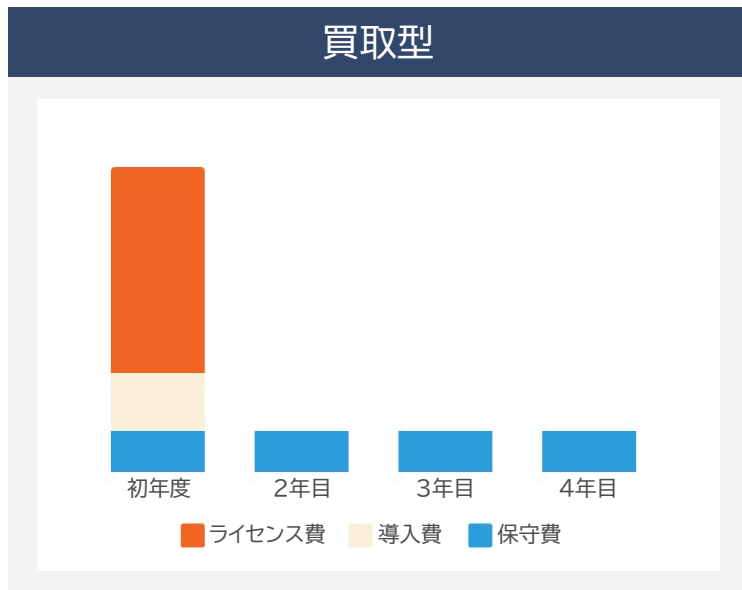


休暇申請の手順を教えてください。

提供形態・価格

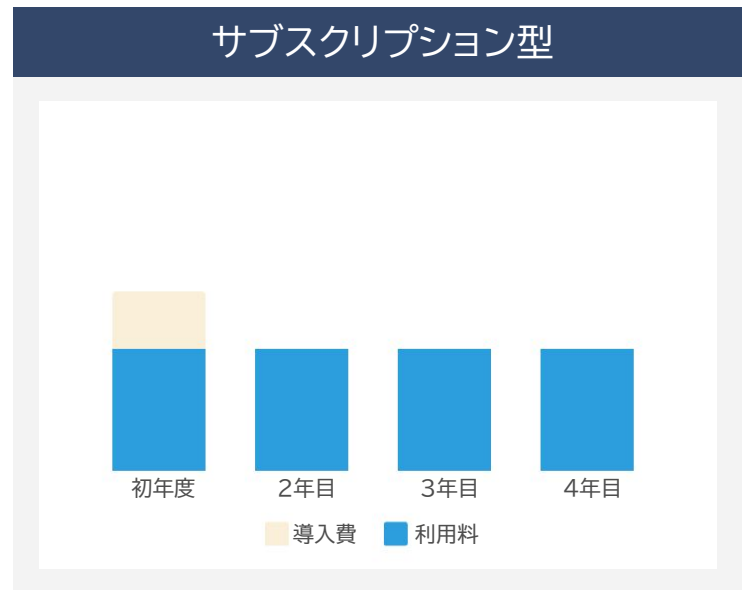
ご予算やご利用シーンに合わせて最も最適なライセンスをご提案します

買取型



- ・ 長期利用を見据え最もお得に利用したい
- ・ 資産として計上したい

サブスクリプション型



- ・ 初期費用を抑えたい
- ・ 経費として計上したい

検索対象量に応じて「シングルサーバー版」と「無制限版」の2タイプ

部門・拠点内だけで使いたい

シングルサーバー版



検索対象量:

~200万文書
(~2TB)

買取型:

180万円
保守:36万円/年

サブスクリプション型:

9万円/月

検索対象量:

~500万文書
(~5TB)

買取型:

400万円
保守:80万円/年

サブスクリプション型:

20万円/月

検索対象量:

~1,000万文書
(~10TB)

買取型:

500万円
保守:100万円/年

サブスクリプション型:

25万円/月

全社横断で使いたい

無制限版



検索対象量:

~5,000万文書
(~50TB)

買取型:

800万円
保守:160万円/年

サブスクリプション型:

40万円/月

検索対象量:

~10,000万文書
(~100TB)

買取型:

1,100万円
保守:220万円/年

サブスクリプション型:

55万円/月

+

*価格はすべて税別です

導入費 **50万円**~(ご要件に応じて個別見積)

オプションライセンス - コネクタオプション

#	オプション項目	買取型		サブスクリプション型	説明
		ライセンス費	保守費		
1	Notes連携	80万円	16万円/年	4万円/月	Notes/Dominoも検索対象にします
2	SharePoint Online連携	80万円	16万円/年	4万円/月	SharePoint Online(Office365)も検索対象にします
3	Box連携	80万円	16万円/年	4万円/月	Boxを検索対象にします ※全文検索が可能となります
4	Dropbox連携	80万円	16万円/年	4万円/月	Dropboxを検索対象にします
5	Googleドライブ連携	80万円	16万円/年	4万円/月	Googleドライブを検索対象にします
6	desknet's NEO連携	80万円	16万円/年	4万円/月	desknet's NEOを検索対象にします
7	Garoon連携	80万円	16万円/年	4万円/月	サイボウズGaroonを検索対象にします

*上記価格はすべて税別です

オプションライセンス - 機能オプション

#	オプション項目		買取型		サブスクリプション型	説明
			ライセンス費	保守費		
1	AutoCAD(DWG)テキスト検索		50万円	10万円/年	2.5万円/月	dwgファイルが検索対象です
2	一太郎テキスト検索		50万円	10万円/年	2.5万円/月	一太郎ファイルの全文検索が可能です
3	セキュリティ製品対応		80万円	16万円/年	4万円/月	Microsoft社「MPIP」、NEC社「InfoCage」データクレシス社の「DataClaysys」に対応
4	外部コマンド実行		100万円	20万円/年	5万円/月	外部サービスとのAPI連携が可能
5	生成AI連携オプション	シングルサーバー版	150万円	30万円/年	7.5万円/月	生成AIを活用して情報の抽出・加工を対話形式でサポートします Neuron ESの検索対象量に応じて価格が異なります
		無制限版	300万円	60万円/年	15万円/月	
6	ファイルサーバ可視化	シングルサーバー版	80万円	16万円/年	4万円/月	検索対象リポジトリの可視化・分析ができます 分析レポート機能によりリポジトリの最新状態を把握可能です
		無制限版	160万円	32万円/年	8万円/月	

*上記価格はすべて税別です

ご利用開始までの流れ

まずは無料評価版で
「Neuron ES」の効果を実感してください

本日

製品
ご紹介



準備事項の
ご説明

- ・ 弊社より準備事項のご案内
※情報システム部門様のご同席をお願いします



評価環境
の準備

- ・ お客様にてサーバ等のご準備
※サーバー貸出も可



評価開始

- ・ 弊社にてセットアップから操作方法まで評価サポート
- ・ お客様にて評価期間中に製品の機能や特長をお試しください
※評価期間:1ヶ月



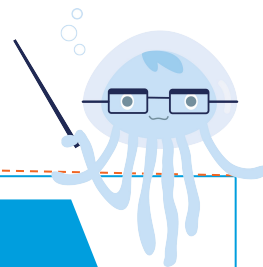
判定
社内報告・稟議

- ・ お客様にて導入の可否を決定



本導入

無料評価版には、評価支援プログラムが含まれています
トライアル期間中は、**カスタマサクセスマネージャー**がお客様の評価をご支援します



評価環境準備・
インストール

クローリング

評価

1ヶ月

- ・ 評価用サーバーの貸出
※必要時のみ
- ・ インストール作業
(技術者アサイン)
- ・ クローリング方法や
エラー対応のサポート
- ・ アンケートサンプル等の提供
- ・ 評価中のQAサポート
- ・ フィードバック会の開催(2~3回)
※上長様のご同席をお願いします

評価支援プログラム



ブレインズテクノロジー株式会社

【製品に関するお問い合わせ先】

